

## 令和6年度分大船渡市教育委員会事務の点検・評価結果に対する意見

## 1 事務事業

番号	事務事業名	意見
1-1-1	外国青年招致事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語指導助手に適切な研修を実施し、人的・質的向上を図ってほしい。</li> </ul>
1-1-2	知能検査・学力検査実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値の設定は難しく、慎重な検討が必要である。</li> <li>中学校2年生の正答率は、昨年度同様に成績の落込が目立っている。</li> <li>過去には、標準学力テストの結果が全国平均を上回っていた時期があった。平均を下回っている学力を少しでも上げていく工夫が必要である。</li> <li>学校では標準学力テスト等の結果を有効に活用してほしい。</li> </ul>
1-1-3	生徒指導研究事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き教員向け研修の充実を図り、指導力のスキルアップにつなげてほしい。</li> </ul>
1-2-1	教育相談員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談室を利用して全員が改善して学校に適應することが期待されるが、不登校改善率が大幅に低下している。</li> <li>不登校改善率と教育相談室の利用者数は、併せて分析する必要がある。</li> <li>事業内容等の「問題行動」という表現は、誤解を与える可能性があるので、「問題」という言葉がなくなるようにした方が良い。</li> </ul>
1-2-2	心の教室相談員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の不登校生徒数の目標値は、令和5年度及び令和6年度の実績に比べると、現実的には達成するのは難しいと感じる。</li> <li>不登校の状況の改善には、子供を中心に学校・関係職員・保護者が一体となって連携して対応することが不可欠である。</li> <li>子供たちが、より気軽に相談できる体制の充実が求められる。</li> <li>別室登校や個別対応の重要性が増しており、校内教育支援センターの充実を図ることが必要である。</li> </ul>
1-2-3	緊急スクールカウンセラー等派遣事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールソーシャルワーカーは十分活用されている。</li> </ul>
1-3-1	小中学校体育文化活動大会出場費補助事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域クラブに移行しても補助してほしい。混合チームも増加している。対応が難しいかもしれないが、生徒や保護者のために、大会出場費補助の検討をお願いしたい。</li> <li>支援が不十分だと、子供たちが体育や文化の対外活動に支障をきたすこともあるので、手厚い支援が必要である。</li> </ul>

番号	事務事業名	意見
1-3-2	児童生徒各種健康診断事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>進捗度とその理由の内容が読み取りにくいいため、分かりやすい文言に変えた方が良い。</li> <li>学校では有所見者に対して受診を勧めているが、実際に受診させることが難しい場合もある。</li> <li>令和7年度目標値に対し、令和6年度実績はまずまずの結果である。</li> </ul>
1-4-1	教育用コンピュータ整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育用コンピュータは次々と新しくなっていており、多額の費用がかかっている。金額に相応する効果を出すように工夫して取り組んでほしい。</li> <li>児童生徒用のデジタル教科書は、一部の学校で導入されており、今後は他教科や他校へ段階的に導入してほしい。</li> </ul>
1-4-2	学校施設整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>修繕対応率が低く、要望に対応できていない。</li> <li>照明をLED化して明るくしてほしい。</li> </ul>
1-4-3	スクールバス運行事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールバスの運行に対するクレームがないのであれば、進捗度は「A」評価が妥当である。</li> </ul>
1-5-1	地域学校協働本部事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前は、スクールバス乗車時に問題があり、教員が同乗していたが、現在は運転手と生徒だけで問題なく乗車できるようになり、その改善は素晴らしい。</li> <li>図書ボランティアは、本の修理や配架だけでなく、分類や入荷本の台帳記入など多くの業務を担っているため、学校では大変助かっているだろう。</li> <li>教職員は図書業務に不慣れになる恐れがある。子供の読書指導については学校の主体性も大切である。</li> </ul>
2-1-1	三陸公民館施設管理・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>越喜来地区や吉浜地区を含めて活動の拠点になっているため、地元住民が使用料なしで使える形が望ましい。</li> <li>外部の団体には、一部負担を求めることはやむを得ない。</li> <li>施設の不具合は、成果に記載されている実績以外にも細々としたものがあると推測され、一般市民には分かりにくい。成果指標を検討する必要がある。</li> </ul>
2-1-2	図書館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館は、受験生にもよく利用されており、貴重な場所になっている。</li> <li>進捗度とその理由欄に「インターネットの普及や人口減少等により、利用者数は減少傾向にある」と記載されているが、令和5年度実績及び令和6年度実績からは読み取れない。</li> <li>貸出点数は減少していても、利用者数が増えていることについて記載した方が良い。</li> </ul>

番号	事務事業名	意見
2-1-3	博物館施設改修事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災は、我々の故郷の歴史に大きな影響を持つ事柄であり、3年かけて改修してきた津波展示物を来訪者に伝えていくことが今後の重要なポイントになる。</li> <li>・博物館は、アクセスが悪く来訪しにくいという課題がある。</li> <li>・修学旅行等は、大船渡市立博物館ではなく、陸前高田市の東日本大震災津波伝承館に行くことが多いため、博物館に来てもらうための工夫が必要である。</li> </ul>
2-2-1	市民講座開催事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治大学は市民講座にとどまらず、多様な形で交流が行われている。講座はやや高度に感じられたようだが、今後も連携して講座を継続してほしい。</li> <li>・講座内容を市民ニーズや理解度に沿った内容にし、さらに満足度を高めてほしい。</li> </ul>
2-2-2	博物館教育普及事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学団体を増やすため、展示の魅力を積極的に発信してほしい。</li> <li>・学芸員による出前講座は非常に有益である。出前講座を中学校だけでなく、小学校まで拡大し、学年ごとの学習内容に関連させるなど、授業に組み入れて活用してほしい。</li> <li>・進捗度とその理由欄に「どんなことをやっているか」、「満足度はどうか」など具体的な内容を記載した方が良い。</li> </ul>
2-3-1	社会教育関係団体活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も各団体の事業内容等に合わせ、適切な支援をしてほしい。</li> </ul>
3-1-1	学校体育施設開放事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体数が減っているため、学校体育施設の利用件数が減るのは仕方ない。</li> <li>・利用件数の実績が目標の9割を超えていて、実質的にも利用人数が増えているという状況であれば、進捗度は「A」評価が妥当である。</li> </ul>
4-1-1	埋蔵文化財調査事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標を「発掘調査による出土遺物量」にしているが、予測や増減を調整できない数量を成果指標に設定することに課題を感じる。見直しが必要ではないか。</li> </ul>
4-1-2	博物館調査研究事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館資料としての登録資料数は、目標を達成しているので、登録資料を博物館企画展などで公開して活用してほしい。</li> </ul>
4-2-1	文化財保護管理事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文化財の保護・管理はおおむね適切に行われている。</li> </ul>

## 2 基本事業

基本事業名	意見
1-1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均比率は、学年によって異なるものの落込が見られるため、学力向上のためには改善が必要である。</li> </ul>
1-2 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗度とその理由等の表現について、各学校では自己肯定感の育成を重視しているので、学校教育の取組を強調するためにも「教育活動の充実やスクールカウンセラーの配置」に変更した方が良い。</li> <li>・児童生徒の抱える悩みをしっかりと受け止められる体制を整備していくことが重要である。</li> </ul>
1-3 健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の「60（ロクマル）運動」が全学校で実施されていることは重要であり、児童生徒の運動習慣を維持する要因になっている。</li> <li>・定期健康診断の肥満度が標準である生徒の割合が増加しており、良い傾向にあるが、一部の生徒は自己判断で体重制限を行っている現状がある。健康とは何かという点を考えることが大事である。</li> </ul>
1-4 教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の統廃合は、地域や保護者、子供たちの意見を聞きながら進めてほしい。</li> </ul>
1-5 地域に開かれた魅力ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に密着した学びを教育課程に取り入れることは、広域学区化や授業時間の制約などがあり、工夫が必要である。</li> <li>・子供の頃は、自分の住む地域を良いところだと思っけていても、大学や就職先がなく、若い人が地域に残れないことが残念だ。</li> <li>・大船渡市の良さを広めながら、地域で子供たちを取り囲んで育てる事業を活性化させてほしい。</li> </ul>
2-1 学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標の生涯学習施設の整備に関する市民意識調査が低い、回答者が施設を利用していない場合は答えられないため、実績は上がりにくいだろう。</li> <li>・生涯学習施設は、学生等の居場所づくりという役割も重要になってきている。引き続き、施設の充実に努めてほしい。</li> <li>・進捗度とその理由欄に、学生や若年層が利用する場が増加していることや、その学習環境について加えてほしい。</li> </ul>
2-2 学習機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度を分析し、参加意欲を高める事業を進めてほしい。</li> </ul>
2-3 学習活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標の実績だけで評価すると、進捗度は「B」評価となってしまうが、数値には表れていない成果もかなりあると感じている。</li> </ul>
4-1 文化財の保存と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館を子供たちに見せる取組をさらに実施し、入館者の増加に努めてほしい。</li> <li>・文化財は適切に管理され、博物館の資料登録件数も目標を達成しており、着実に事業を実施していると感じる。</li> </ul>

基本事業名	意見
4-2 伝統文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は地域の伝統芸能を重視しており、運動会などでの披露を依頼するため地域団体と密接に連携して対応している。</li> <li>・成果指標の市民意識調査の結果は良好だが、各団体は後継者不足で高齢化が進み、困難に直面している。外部から見れば楽しそうに見えるが、実情はかなり厳しい。</li> <li>・子供の頃に郷土芸能に関わり、大船渡を「良いところ」だと思っていた人が、地域に多く残れば、郷土芸能を継承する人も増えるだろう。</li> </ul>

### 3 総括（施策）

施策名	意見
1 学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今後もコミュニティ・スクールの取組を推進してほしい。</li><li>・ 小学生・中学生共に「学校に行くのが楽しい」と答えた割合は高く、十分に目標を達成しているため、進捗度は「A」評価が妥当である。</li></ul>
2 生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 冷暖房とWi-Fiが整った快適な環境で、受験生などの利用が増え、居場所づくりにつながっていることは、市民にアピールできる部分だ。</li></ul>
4 地域の歴史・文化資源の継承	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「郷土の伝統文化や文化財を大切にしたい」と答えた市民の割合は目標を達成していないが、令和6年度の実績75.2%は高く、取組の成果はでている。</li></ul>